

# 音吉MEG”オリジナル盤はハイエンドに克てるか！” VOL.16 2019/12/28

## ウエッ! 勘弁して欲しいジャケット、でも内容良しの盤

今月は”ウエッ”の盤を厳選?してみました、音よし、内容よし、でなければお話になりませんから、結果、ソコソコの盤になりました。  
”ウエッ”はあくまでジャケット・デザインで内容ではありませんのでお間違え無き様、それと今回は如何に”ウエッ”か語りたいたばかりに、事実無根の私的推論が多く、まあ、老人の戯言と楽しんで頂けたら、と思います。一応イ加減な論は?印を付けるなどして、配慮したつもりですが?印が多いナア。何何じゃ〜が頻発するレーヴェルも失礼なので10枚レーヴェルを別けました、我ながら細やかな配慮と自画自賛。  
でも、こうやってジャケットを眺めつつ、聴いてると、そんなに”ウエッ”でも無いかな、逆に愛おしく思ってしまった。 ”ウエッ”も人それぞれ、その方のイメージや思い入れで違うかなあ、でも万人共通の”ウエッ”もあるかなあ。廻りの皆さんに”ウエッ”って盤を聞いてみたくなりました。

### 1、EVERYBODY LIKES HAMPTON HAWES VOL. 3: THE TRIO <A>

CONTEMPORARY C3523



HAMPTON HAWES(p) RED MICHELL(b) CHUCK THOMPSON(ds)

1956

ハンプトン・ホースの3部作のVOL.3です、1,2と来てこのVOL.3のギャップが凄い、日本なら3枚のデザインを統一する処、ナイト・セッションの3枚の様に、ウー、こいつは最初からシリーズとして意図されたモノではなく成り行きで、好評で、の3枚なんだ、と推理出来る。

右掲の様にVOL.1,2と来て、デザイン・テイストが全部異なる、過去は過去って感覚ですネ。如何にもウェストコーストっぽいデザイン、N.Y.ではまずない、何でワニなんですかねえ? 米国では馬さんじゃなかった様で、デザインの元凶はイラスト含めロバート・ガイティさん、この方コンテンポラリーでは常連、ふと想いつて他の2枚を確認、1枚目はデザインはハーライン・アノン、フォトはアレックス・デ・パオラとある、2枚目はウリアム・クラクソンなんですね、それで3枚のデザイン・テイストがこうも違うって事か。

プロデューサーはコンテンポラリーですから、レスター・ケネッヒ、エンジニアは1枚目はジョン・パラディーノ、1955年12月、2枚目の1曲だけ1枚目の録音でパラディーノで他はロイ・デュナン、56年1月、3枚目はロイ・デュナン、2枚目と同じセッションです。こうして見ると録音は2カ月で3枚分を録ってます。

一般的にはVOL.1が名盤、通の間ではVOL.2、値も1番高い、今回3枚を通して聴いてみましたが、私の耳ではどれも遜色なかった、です。

因みにワニのバッグが青いジャケットは2nd.デザインです。



21.6  
15.4  
19.5  
18.3  
17.5  
17  
17.4  
19.5  
19.5  
25.6  
194

### 2、”FAT JAZZ” / JACKIE McLEAN SEXTET <A>

JUBILEE JLP 1093



JACKIE McLEAN(as) RAY DRAPER(tuba) WEBSTER YOUNG(cor)

LARRY RICHIE(ds) GIL COGGINS(p) GEORGE TUCKER(b)

1957

何なんじゃ〜、この写真、マクレーンですぞ、ケンナリ・ジャケットだよなあ、全くジャズ感なし、デザインはサイ・レイチマンって方、全〜然、知らぬえ、フォトはチャールズ・ハロンってクレジット、当の本人達は至って真面目にやっどるみたい、大体タイトルの”FAT JAZZ”とは何じゃい、”FAT”の意味は、太った、デブ、脂肪ってなあまり良い名詞、形容詞ではない、それでココに登場するデザート類って事なんだろうが。

この頃のマクレーンはまだまだ全然太ってないし、アルも太ってない、レイ・ドレッパーのチューバを想って、タイトルにアグリーしたのか? 呼んだ以上ソもとらせんと、と思い語ったけど...って感じでしょうか?

レイ・ドレッパーさん1940年N.Y.生まれ、何とこの時17歳! 1982年42歳で若死、何故かこの57、8年にプレステージ系での2枚のリーダー、マクレーンとの3枚、プレステージ2枚とこのジュビリー、58年のマックス・ローチでの3枚、殆どこの時期の録音、チューバなんだからビッグバンドで起用されてるだろう、と思いきや、全然ない。ってな方なので、マクレーンも十分承知の上の起用なのなのですが、私はやっぱり、ソロは難しいナ、と思いました。多分、この後レイ・ドレッパーは主にクラシックの方に戻ったんかしら?

マンハッタン・スクール・オブ・ミュージック出身、この手の楽器は皆さんココジャズアート、ジャズのパーカーには先生いないみたい、です、やはり基本クラシックの楽器ですネ。

### 3、FREE / BENNY GOLSON <A>

ARGO LP^716



BENNY GOLSON(ts) TOMMY FLANAGAN(p) RON CARTER(b) ARTHUR TAYLOR(ds)

1962

これまた、ウエッですよなあ、ベニー・ゴルソンじゃなくて、もう少しネームバリューが低いシカゴの人の盤だったらまず手が出ない。デザイナーはドン・ブロンステインさん、この方、アゴのジャケットのかなりを手掛けてる方、このペインティングは何なんじゃ〜、ですが絵はアラン・ボジコヴィックとクレジットされてるんだけど、ジャケットにはドン・ブロンステインさんのサイン、アゴの中でも異色のジャケットです。

何故、この絵なのか? 思索するも推論さえて出でこず、プロデューサーのエズモンド・エドワースがニュージャージーからシカゴに赴任して来て、たまたま知り合っただけ? ドン・ブロンステインの知り合いだったのか?

当時も多分、不評で? 以降はこの方の絵は登場せず。

プロデューサーは62年プレステージから転職したばかりのエドモンス・エドワース、エンジニアはヴァン・ゲルダーです。ベニー・ゴルソンはもしかして、エズモンドにプレステージから引き抜かれてアゴに移ったのでしょうか?

待てよ、ゴルソンは61年には既にアゴに数枚あるな、ジャズテットの諸作も61、62年、エズモンドのアゴ移籍は62年だし、ゴルソンは62、3年にはジャズランドやオーティオ・フェデリティやマーキュリーに移ってるので違うナ。逆かあ、エズモンドがまた来ちゃったんで逃げ出した?? せつかくジャズテットを立ち上げたのにソウル路線はチョット〜??? って事ですかネ。ゴルソンさん1929年フィラデルフィア出身、90歳、もう残り少ないジャズ界のレジェントの一人ですが、数年前来日しましたがもうヨレヨレで演奏はチョット。

#### 4、JAZZ EYES <A>

REGENT MG 6056



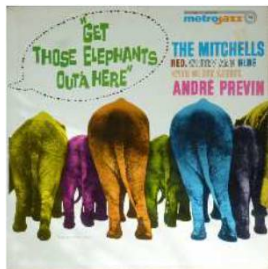
JOHN JENKINS(as) DONALD BYRD(tp) CURTIS FULLER(tb)  
TOMMY FLANAGAN(p) DOUG WATKINS(b) ARTHUR TAYLOR(ds)

1957

ウヘン、顔だけトリシグしちゃったジャケット、首切りデザイン! 違和感ブブンです。デザインは個人名のクレジットではなく、ポートレート・プロダクションとある、お主!、逃げたな。サヴォイのジャケットのデザインは異色、それはオーナーのハーマン・ルヴィンスキーさんにあり、と観た。名の通り東欧からの移民の方、と推察しますが、将に当時のその感覚ではないでしょうか? 東欧のレーヴェルならって感じ、モデルさんを使ったジャケットも散見されるが東欧系の人ばかりですもの。サヴォイはニュー・ジャージーのニューアークに構え、N.Y.には進出せず、ニュー・アークはほんの10数年前まではN.Y.への便が多かった空港のある処、現在はご存知ブルックリンのJFK、30年以上前はラガーディアだった。ニューアークの付近には東欧移民のコミュニティがあったのか? でも元々が軍用空港だし、それは無かろう。リーゼントはサヴォイの傍系、分けた理由はハテ、判らん、1st.は緑のミゾ有、2nd.は赤のミゾ無しです。プロデュースはオジー・カテナ、エンジニアはヴァン・ゲルダーです、内容はジャケット関係なく良い、名盤です。

#### 5、"GET THOSE ELEPHANTS OUT'A HERE" / THE MITCHELLS WITH ANDRE PREVIN <B>

METROJAZZ E1012



BLUE MITCHELL(tp) FRANK REHAK(tb) PEPPER ADAMS(hrs)  
ANDRE PREVIN(p) RED MITCHELL(p,b) WHITEY MICHELL(b) FRANK CAPP(ds)  
1958

何で色付き象のお尻なんですかねえ、判らんなあ。

色付きはブルー・ミッチェル、レッド・ミッチェル、ホワイト・ミッチェルと言う訳でしょうが、その割に赤と白が居ないです。

多分、一度はやって見ただろう、でも流石にデザイン上、色を少々抑え、小さく隠した?

この時代のブルー・ミッチェルのリヴァーサイト、ブルーノート以外の録音は珍しい、リヴァーサイトに録音を開始する

のが58年6月、ヒック6から、ブルーノートのホルス・シルバーへの参加は59年2月、フィンガー・ホッピンから、将にこれから羽ばたこうとするブルー・ミッチェルの58年10月の録音です。

プロデュースはレナード・フェザー、ブルー・ミッチェルの起用は明らかに彼が"ミッチェル"だったから、どうせなら

ビリー・ミッチェル(ts)も入れてくれ、彼はまだテトロイトかシカゴでN.Y.には居なかったのか?

テトロイト出身のペッパー・アダマス辺りは進言した、と思うがなあ? まあ彼もサイトマンなんで、録音当日まで

そう言う事になってる事すら教えて貰って無い可能性が高い。ホワイト・ミッチェルはレッドの弟さんで

トラッド系のベースでハード・バップには起用されない、レッドとの共演だってコピカか? となると彼もまた"ミッチェル"

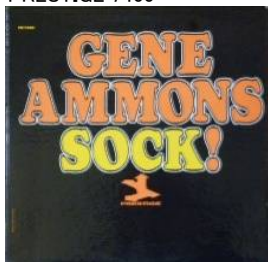
だったから? となるとレナード・フェザーはレッド・ミッチェルを録りたかったのか? 聴く限りブルー・ミッチェルも

ペッパー・アダマスもバリバリだし、レッドにスポットが当たってる訳でもない、録音してからのタイトルですかねえ?

明らかなのは、デザインは録音が終わってから?

#### 6、SOCK! / GENE AMMONS <A>

PRESTIGE 7400



A)1,2,3 GENE AMMONS(ts) MAL WALDRON(p) WENDELL MARSHALL(b)  
ED THIGPEN(ds) 1962

A)4 GENE AMMONS(ts) PATTI BOWN(p) GEORGE DUVIVIER(b)  
WALTER PERKINS(ds) 1962

こう聴き連ねて来ると、どう見ても、ジャケット・デザインは録音の後だよなあ? でもこの辺りのプレステージだけは、

プロデューサーのエズモンド・エドワーズやトーン・シュリッテンがデザインしてるので、同時併行もあるかも?

まさか、ジャケットこれだからコレにあった演奏をせい! ってな事は断じて無いと思います。

普通は、デザイナーさん録音された音源を聴いてデザインしたかも怪しい、話だけって感じもあるかも?

この盤はB面はポップ・ワインストックがスーパー・ヴァージョンの1954、5年の録音、A面はエズモンド・エドワーズで62年、

発売は65年なのでデザインが先!の心配?はありません。

それにしてもこのデザインこそショック、普通の方はまず手が出ない、ジーン・アモンズ好きの私も恐る恐る

購入、内容はお聴きの通り普通のジーン・アモンズで良かったです。SOCKの意味は投げる、殴る。

#### 7、EXPLORING THE FUTURE / TEE CURTIS COUNCE QUINTET <A>

DOOTO DTL 247



CURTIS COUNCE(b) HAROLD LAND(ts) FRANK BUTLER(ds)  
ELMO HOPE(p) ROLF ERICSON(tp)

1958

コレは一体どうしちゃったんだろう、まるで80年代のソウルのブーツィ・コリンズかファンカデリクかを想い起こされる

ジャケット、しかも写真を良く観ると、ベルトのバックルなんか用意周到に造ってる、スタッフは大真面目。

写真では笑ってるけど宇宙服を着せられてポーズをとってるカーティス・カウンスさんの心の内は、如何ばかり

だったのでしょうか? 意外にあっけらかんとしていたのかも知れませんが??

ドートン、ドートはジャズは4枚だけ、テクスター・ゴードンとカール・パーキンス、この2枚は高価、それとパティ・コレット

とコロ盤、レーヴェルはマルーンではなく、黄色です、但し2nd.溝無しもあるのでご注意の程。

デックスとパーキンスの盤と比べて悲しい程、ジャズと遠いデザイン、それ故か、クレジット無し、なにプロデュースも

エンジニアもありませんから。内容はお聴きの通り、カーティス・カウンス・グループのご機嫌の内容です、

残念なのは、オリジナルメンバーのカール・パーキンスが死去、ジャック・シェルトンに替りロルフ・エリクソン、私は、録音の

せいもあるが、エリクソンの方が良いと思う、この後このグループは消滅。

8、ROLF ERICSON AND HIS AMERICAN ALL-STAR <A>

EMERCY MG 36106



ROLF ERICSON(tp) CECIL PAYNE(brs) DUKE JORDAN(p) ART TAYLOR(ds)  
JOHN SIMMONS(b)

1956

もう少し何とかしてあげたい、このデザインでロルフ・エリクソンの人生を決めちゃったのではなからうか？ジャケットにはフォト・ハイギヤレット&ワードとある、表と裏と言う事か？合成の2カットなのか？は判りませんがこの2人のカメラマンのせいではなく、デザイン、クレジットないが多分、アーサー・タルメージが主犯でしょう。アーサー・タルメージはマーキュリーの創始者4人の1人で、エマーシーのドラマ・ロコはこの方の作品、それとこれまたクレジットないが多分プロデューサーのボブ・シャットが共犯って処か？この面子ですから内容は悪かろう筈はなく、アーネスト・アンダーソンの様に、3枚の7インチ、40ローム原盤のどれかのジャケットと同じにしときや良かったのに、と心底思う。因みに40ローム、7インチのフォトグラファーはベント・マルンヴィスト、読み方判らんですが？とあります。私は見た事無いのですが、まさかスウェーデン、40ローム12インチで、アーネスト・アンダーソンの様にこのデザインがあるのでしょうか？存在すると主犯、共犯説が崩れ去ります。ロルフ・エリクソンは40ロームまでのジャケット裏のノートでは47年西海岸に、ベニー・カーター、チャーリー・ハンネット、エリオット・ローレンス、ウッディ・ハーマン、ハリー・ジェームス、レス・ブラウンとビッグ・バンド要員、その後、スタン・ケントン、メナード・ファークソン、シガス、ロッド・レヴィットと渡り歩いたが日の当たる場所には出れず。スモール・サイドではハロルド・ラント、70年代以降ヨーロッパで2、3枚のリーダー。

9、JAZZ EROTICA / RICHIE KAMUCA OCTET <A>

HIFI-RECORD R-604



RICHIE KAMUCA(ts) CONTE CANDOLI(tp) FRANK ROSOLINO(tb)  
ED LEDDY(tp) BILL HOLMAN(brs) VINCE GUARALDI(p)  
MONTE BUDWIG(b) STAN LEVEY(ds)

1958

タイトルからしてジャズ・エロチカとはお主！何だと心得る、ジャケットもタイトルに引きずられたか、先にデザインを決めていたか、判らぬが何と言う事をしてくれたモノか。制作陣も少しそれを感じてか、プロデューサー、エンジニア、デザイナー、ペインティングのクレジットは全く無し、お主ら〜逃げおるか〜。それが証拠に2nd.ジャケットは海岸に楽器の刺さったヤツに、タイトルも変えてる。内容はお聴きの通り、ご機嫌のウェスト・ジャズ、メンバーも名うてのミュージシャン達、まあ、コイツを試聴して「エロチカ」と題した方の気持も全く判らぬでもない、やはりジャケット・デザインが拙かった、多分聴かねえてタイトルだけでデザイン、ペインティングしたんだらう？証拠にロソールとエド・レディの楽器、間違つてる。リッチー・カムカはウェストで結構アチコチに参加してる印象だが、リーダー・アルバムは驚く程少なく、50年代はモード・コロ盤のみ、後は70年代のコンコードに3枚のみ、1930年ペンシルベニア、フィラデルフィア生まれ、1977年ロスで46歳で亡くなって、もしもっと長生きしてたら、枯れたカムカも聴いてみたかったですが、ドツボのウェストでもなく、かと言ってN.Y.でもない彼の個性は現在に通じるモノがある、やっぱスマート・レスターかな。

10、STANDING OVATION / COUNT BASIE <A>

DOT DLP 25938



COUNT BASIE(p) MARSHAL ROYAL(as) BOBBY PLATER(as)  
EDDIE "LOCKJAW" DAVIS(ts) ERIC DIXON(ts,fl) CHARLIE FOWLKES(brs)  
HARRY "SWEETS" EDISON(tp) GENE GOE(tp) SONNY COHN(tp) AL AARONS(tp)  
OSCAR BRASHEAR(tp) GROVER MITCHELL(tb) RICHARD BOONE(tb)  
BILL HUGHES(tb) FRANK HOOKS(tb) FREDDIE GREEN(g)  
NORMAN KEENAN(b) HAROLD JONES(ds)

1968?or69?

これまた酷いジャケット、ウェットと思う間もなくスルーしてしまいます。ラスヴェガスのトピカーナ・ホテルでのライブ盤。ペイシー牧師が教会で説教垂れる様なイラスト、こちらはイラスト、デイブ・ウィリアムス、デザイン、クリストファー・ウォルフ、アート・ディレクション、ビバリー・パーカーと億面なく名を晒してる、自覚なし、それにアート・ディレクションって何したって言うんじゃ。もう1枚のDOT盤、ストレート・アヘッドはアマチュア・ビッグバンドのバイブルになってるけど、こちらは名も挙がらない。そうかペイシー教祖様がバイブルを説教垂れるのか？ストレート・アヘッドのジャケットも確認、デザイナーとアート・ディレクションのお二方、一緒でした。2枚共、プロデューサー、トム・マックとデヴィ・レグ、エンジニアは異なる人、アレンジは引き続きのサミー・ネスティとチコ・オファルガが分けあってる。ジャケット眺めてたら、気付いた、DOTはこの時期、パラマウント・ピクチャーの傘下になっちゃってますねえ。さて、来年1月25日(土)は、正統なテーマで「ベン・ウェブスターの系譜」です。



\*このレジュメはご自由にお持ち帰りください、持って帰ってイイのかな、と感じてる方へ。へっいらねえよの方は置いていって構いません。  
\*\*この会のみ1オーダーでもOKの了解をマスターから貰いました、でも出来れば2オーダーを！  
\*\*\*ついでに2020年「N.Y.ライブ三昧ツアー」の告知、2020年6月末、1週間、申し込み締切は2月末です。来年は東京オリンピックなので帰りの便が来日客に重ならぬ様1週間早目か。ツアーと言ってもこつとらビジネスでやっとなる訳では無いので、一緒に行きましようって会です。  
\*\*\*\*<A>はA面、<B>はB面。 TEXT&PHOTO/小倉正人